施 策 評 価 シ ー ト

1 総合計画上の位置づけ

担当課： 水道課

施策名	37 上水道
政策名	快適な「暮らし」を造る
施策がめざす将来の姿	・衛生的で安全な水が安定して供給されており、市民が安心して水道水を利用しています。 0

③ 施策評価指標

成果指標名	単位	後期当初値	令和９年度目標		
有収水量率	%	67	80		
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	66	62	59		

成果指標名	単位	後期当初値	令和９年度目標		
経常収支比率	%	112	105		
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	105	105	107		

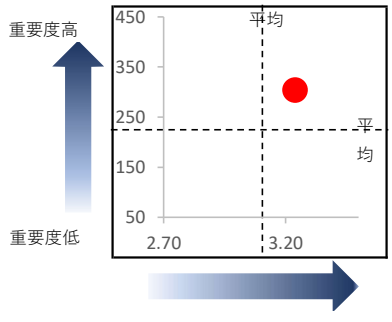
3 施策の重要度と満足度（市民アンケート調査結果）

重要度／単位（人）
令和7年度
304

満足度（満足している市民の割合）／単位（%）		
令和6年度		**令和7年度**
89.8	→	90.5

※増減（→）の基準は３ポイント以上とする

R7重要度・満足度（他の施策と比較した位置）



4 施策の課題と今後の方針

（施策評価指標等の分析のほか、今後重点化していく事務事業について、現状・課題・背景などを踏まえて記載。）

関市の水道管の布設年度は、最盛期が昭和50年ごろから平成10年ごろまでと偏りがあることから、管路の老朽化が今後20年間で一気に進むことになります。老朽化が原因で漏水を引き起こし、このことが有収率（使用者に届き、使用された水の総量÷送り出した浄水の総量）が低くなる原因であると考えられます。また、有収率が下がるということは、送水・配水ポンプなどに掛かる電気料金や薬品費などのコストが無駄にかかることになり、安定的な経営基盤の妨げとなっています。市では、老朽管の更新事業や管路の強靭化、長寿命化を推進するとともに、有収率の低い配水区域の調査を拡充し、漏水修繕を着実に行うことによって有収率の改善に努めていましたが、近年改善傾向にあった有収率も令和５年度に低下に転じたため、令和7年度に引き続き、計画的に漏水の可能性が高い水道管の布設替えを進めるためにAIを活用した管路の劣化診断を実施します。また、災害時に病院・公共施設などへ水を供給するための重要給水路線対策事業を新たに開始し、令和８年度からは、小瀬水源地から安桜山配水池までの送水管の布設替工事に着手することにより、安心安全な水道水の安定供給を図ります。

5 施策を構成する事務事業の今後の方向性

（右欄は、施策を構成する事務事業のうち、今後特に重点化するものに○、縮小するものに△、廃止するものに▲を付す。）

R7決算額（千円）	重点化(縮小)する細事業（主なもの２事業まで）	方向性		事務事業の今後の方向性	重点化
		事業費	成果		
0					